

# 山岳ぐんま

## 群馬県山岳連救助隊活動報告

遭難対策委員会 毛 呂 憲 治  
(前橋山岳会)

平成二十八年七月二日〜三日の二日間、遭難対策委員会の活動として、救助隊の装備点検、谷川岳山開きにおける安全登山パンフレットの配布、救助訓練に参加しましたので報告します。

今年度まで救助隊の装備は、沼田に保管してありました。そのため、訓練や行事等のたびに同じ人に負担がかかっていました。装備保管場所移転は、ここ数年の課題でしたが、今年四月に良い場所が見つかり、伊勢崎に移転しました。今回の装備点検は、移転後初でし



張り込み救助のレクチャー



引き上げシステムの構築

たので、装備係を中心に装備の個数や状態をチェックしました。参加七名(うち新隊員二名)のため、ロープのまとめ方、ワイヤーのまとめ方、救助隊装備の説明等、基本的なことを確認しました。新隊員はやり慣れない方法や、聞き慣れない名称に困惑しているようでした。点検後、救助訓練で使用される機材を積み込み、谷川岳で明日行われる救助訓練に出発しました。

しました。ここ数年、救助隊の懇親会と言えば、『キムチ豆腐』が定番メニューでしたが、今回は『スンドゥブ』です。スンドゥブとは韓国の辛い豆腐鍋でアサリなどの魚介出汁が特徴の料理です。定番だったキムチ豆腐から『辛い』と『豆腐』と言う基本は残しつつ、新メニューに挑戦しました。耳慣れない料理でしたが、暑い日にはぴったりの鍋に、初体験の人からも好評をいただきました。

翌日は四時から谷川岳山開きに参加しました。毎年、谷川岳付近にいましたが、個人的な事情で参加できず、今回初参加させていただきました。参加者は私の予想をはるかに超えていて大変驚きました。また、参加者は年配の方が中心かと思いきや、若い世代の参加も多く、改めて最近の登山人気を感じさせられました。山開きの式典終了後、谷川岳ベースプラザ、ロープウェイ乗り場前にて、安全登山の啓蒙活動として、安全登山パンフレットの配布を行いました。予定していた二〇〇部は、あつと言う間になくなってしまい、配布量が少なかった印象でした。パンフレット配布を終え、七時から救助訓練開始の予定でしたが、



ロープウェイ駅にて安全登山の呼びかけ

出席予定者が六時半の時点で全員揃っていただけ、早めの開始となりました。新道からマムシ岩にアプローチする予定でしたが、道路崩壊がひどいため、予定を変更し、旧道からのアプローチとなりました。天気予報では一日を通して天候が安定しないようで、ブルーシートを使ってベースキャンプ作りからスタートしました。木がなるところはボサからスリングで引っ張るなど、今までの訓練の成果が所々に現れていました。肝心の訓練はと言うと、入隊して間もない隊員が多かったため、ロープを使って、『岸壁の中を自由に動けるように』をテーマに、上がり下がりを中心に行いました。参加者は救助隊十名、遭難対策委員会から一名の合計十一名で行いました。

訓練の想定としては、「崖壁に取り残された要救助者の救助」です。まず、崖壁の上まで行き、検索をかけます。今回はマムシ岩で狭かったので、検索は二か所のみでした。トップ、セカンド、サードと各々の役割を意識しながら行きます。ここではコミュニケーションの取り方が大変重要になってきます。救助隊では特に、アイコンタクトを伴ったコミュニケーションを心がけています。アイコンタクトして、お互いに意識し合うことで、伝達ミスを未然に防ぐことが狙いです。新隊員にとっては、初めての岩壁での訓練でしたが、六月五日に新隊員訓練として、事前に一連の流れや道具の使い方を練習した甲斐もあり、積極的に参加しているように感じました。

今回の訓練内容は、ルート工作しての上がり下がりをして二回ずつ、引上げを、システムを組み替えて三パターン、崖壁に取り残されたクライマー（要救助者）を張り込みにより救助でした。途中、リングポルトを打つことがない隊員のために、リングポルトの説明と体験も行いました。

今回の訓練は山開きに重なっていることもあり、見学者が多くな

ました。そんなことに気を取られている場合ではないのですが、救助隊員もいつもとは少し違った様

子で、和やかな雰囲気訓練になったように感じました。

## 群馬岳連ファーストエイド講習会

遭難対策委員会 石井達幸  
(伊勢崎山岳会)

期日 平成二十八年七月二十四日

会場 史跡金山城跡ガイダンス施設

設 太田金山地域交流センター

申込者 岳連関係内外二十七名

講師 町田遭難対策委員長

スタッフ 遭難対策委員会および

指導員（以下敬略）角田、毛呂、

神垣、上原、小和田、竹吉、友

野、井田、石井

内容

①山での遭難って何だろう？遭難しないためには。

●実際の遭難内容を統計やデータで説明

②怪我しちやたらどうするの？応急手当（ファーストエイド）について。

●三角巾の畳み方

●ジュースを使って実際の出血状況を再現

●直接圧迫止血法

●サムストリング、テーピング、三角巾、エアマットなどを使った捻挫や骨折の固定方法

③山の事故に遭遇したら？疑似体験（シミュレーション）で勉強しよう。

●道具を使わない短距離の搬送法

●トレッキングポールやバックパックを使った担架の作り方と搬送法

●現場を想定した遭難者発見からどうするかシミュレーション

●外に出てチームでの遭難者発見から搬送をして採点ディスカッション

遭難してからどうする？ではなく遭難しないための準備・心得。そしていざ遭ってしまった時の対処法、レスキューに引き渡すまで

にできることの流れを委員会で教わってききましたが、一般の登山者向けのまずはじめの講習というところで仕事の都合をつけお手伝い



下脚骨折・エアマットを使った固定



ザックを使った簡易タンカーによる搬送



傷病者の初期観察 高校生も参加

参加しました。

最近ではテレビなども山の特集をやるのを見たり大分山登りを身近に感じますが年々遭難者数は増えています。参加してくれた受講者はそういう背景か、真剣に学びに臨んでいるのが感じられました。

直接圧迫止血法の形をとってもらつて実際の作業時間を実感してもらったり、現場を想定したシミュレーションなど現場で体験すると大変な作業なのだなど想像できます。

昼食をはさんで、より実践的な内容だった午後の講座。

搬送方法や初期観察、最後はグループに分かれて外に出て実践しながらのシミュレーション。初めてのファーストエイド講習で全体の流れを上手く把握して進行する様子が見え、講習生の真剣さが伝わってきました。

山に行く日を削つても講習を受けにくる人、教える人。遭難対策の講習ではありますが、登山という文化を守るためや自分の登山レベルを上げるために重要なことであるとも思います。自身も講習生に負けないように勉強しないと、と思いました。

# 九月度の救助訓練から

群馬岳連遭難対策委員会

委員長 町 田 幸 男

期日 平成二十八年九月四日

開催場所 沼田山岳会事務所

今回の救助訓練は普段行っている救助技術に関する強度試験についての検証を行った。強度に関する計測は群馬でも二十年ほど前に何度か行つたが、近年では初めての試みである。日山協の指導、遭対委員会での検証は定期的に行っているが、結果についてはあまり公表されていない。

ここ数年新たな隊員も加わり、訓練を重ねるにつれ自分たちが行っている救助システムでの安全性に対する疑問の声も上がり始めた。今回は良い機会なので沼田山岳会のボードを使用させていただき強度に関する様々な検証を実施した。

## 1. 張り込み救助に関する検証

張り込みやチロリアンブリッジはさまざまな救助場面で使われる技術である。



張り込みでの引力計測

まずは張り込みにおいて隊員一人がどれだけ力を発揮できるのか計測した。張り込みでは下にある物を背筋を使って引き上げるのは異なり、斜め上方方向に向かってロープを引くため意外と力を発揮できない。足場が良い場合は最大800N（約80kgf）の引力を發揮できるが、実際の山中での作業を想定すると平均500N程度しか引く事が出来ない事が今回の計測

から解つた。また、ロープやワイヤーを引き込むために1/4システムを使用するが、この時の最大引き込み力は3.8kN、固定した後は1.8kNまで低下している事も判明した。

興味ある結果は、ほぼ平行的に張り込みを行ったチロリアンブリッジのワイヤーに人をぶら下げた時の張力変化である。約65kgの隊員を一名ぶら下げただけで張力は1kN増加し、更にもう



検証・立木でのクリップビレー

定を目的にさまざまなストッパーを使用する場合があるが、救助では二名以上の荷重がロープにかかる場合がほとんどである。過去の検証ではユマールをロープにかけて引くとロープの表皮（シース）は3.5kN程度で剥けてしまった。つまり、前項の引き上げ検証の結果からユマールをかけて引き上げを行うとシースが剥け、ロープが切れる可能性が考えられる。今回の検証から次ページの表に示した結果が得られた。

一名ぶら下げると最大5.6kNまで増加した。対してφ10mmのスタティックロープでは二名ぶら下げても3kN程度の張力にとどまっていた。この事から得られた結論は、伸び率が極めて低いワイヤーではたるみはあまり生じないが、吊り下げた錘による張力の増加が大きいため、支点の強度を充分考慮しなければならぬ。対して、たるみの大きいロープでは張力の増加はワイヤーに比べ少ないが、たるみが大きくなるので錘を充分浮かすことが出来なくなる。

## 2. 引き上げに関する検証

15kNの錘を引き上げるには15kN

の力で引けば上がると思っっている隊員が多いのだがそれは間違っている。確かに空中を垂直に引く事ができればその通りだが、実際の現場ではロープは岩や地面、草木などとこすれ合い思わぬ摩擦抵抗が生じている。今回は足場パイプを介し、ロープの流れを約120度湾曲させた状態で引き上げを行った。結果は隊員二名約150kgを引き上げるのに3.5kNの力を要した。引き上げシステムではたとえプリーと言えどシステムの途中には物を介在させないようにするのが基本である。

## 3. ストッパーに関する検証

引き上げシステムやロープの固

中でも有効なのはマイクロセンダである。最大荷重は低いがロープにダメージを与えていない。つまり4kNを超えると滑り出してしまうため、ロープ切断に対してヒューズの役目を果たしてくれる事になる。ロープ強度に対する安全率と引き上げに要する荷重を考えると最大値を4kNと考えるのは検証結果から妥当な数値と言える。使い方を熟知すれば他のデバイスも大変有効ではあるが、救助の現場では予測される荷重に対し安全性を充分考慮すべきである。

## 4. 確保の検証

救助隊では搬送時に立木を利用して確保を行う。立木にロープを巻きつけ、ハーネスのピレール

ロープはすべてφ10mmスタティックロープ使用  
(※ユマール2のみφ8.5mmダイナミックロープ使用)

デバイス	最大荷重	結 果
マイクロセンダ	4.1kN	切断せずにロープが滑り出す
グリグリ	8.1kN	ロープのシースが剥け最後はロープ切断
プロトラクション	6.5kN	シースが剥ける
ユマール1	6.1kN	ユマールの歯が破断
ユマール2	5.4kN	シースが剥ける

荷重の表示について：1 kgfは9.8N (約10N) 1 kNは1,000N

プにかけたカラビナでグリップビ  
レーを行うといったもので仮称C  
CB(クリップコンティニュアス  
ビレー)と呼んでいる。救助隊の  
中では従来〇玉制動と呼んできた  
が、他県から講習で使える呼称を  
との声がありCCBと命名した。  
この確保は実際の訓練で良く使  
用しているが、隊員の中から不安  
で使えない、止める自信がないと  
の声があつたため今回その理論的  
な数値の裏付けを行った。  
二名の隊員の計測結果はロープ  
の滑り出しで最大2.5kN、制動中

も2kNの制動力を發揮する事が  
解つた。これはATCによる制動  
確保の1.3倍に相当する。この確保  
の利点は制動力が弱いと感したら  
自らが立木を回りこむことでロー  
プ自体も立木に絡むため、容易に  
制動力を増加させられる点にある。  
更に、立木を利用することでスリ  
ング等のセットが不要なため、連  
続した迅速な確保が行えることに  
ある。

### 5. リーダーの確保、制動確保に 関する検証

これは救助技術に直接関係しな  
いが、良い機会なので今回計測を  
実施した。以前からクライミング  
中のリーダーの確保では制動確保  
が重要であり、そのためのロープ  
を流す指導が行われてきた。しか  
し、近年では確保器の発達により  
無理にロープを流さなくても制動  
はおのずとかかっている。制動を  
かける行為自体が墜落時には困難  
であり、特に新人に教えて出来る  
技術ではないとの意見も上がって  
いる。  
今回は実際にATC等のデバイ  
スを使い確保状態からのロープ  
の滑り出し荷重を計測した。結果  
は、ダブルロープの一本に荷重が  
掛つた場合に片手で制動できる荷

重は1.1kN程度であつた。リーダー  
を想定した70kgのダミーが落下係  
数0.3で墜落すると確保者には約  
3.5kNの衝撃加重が発生する。つま  
り、墜落時の衝撃をATCで瞬時  
に止めるのは不可能であり、必ず  
ロープは流れ出すことになりいや  
でも制動確保にならざるを得ない。  
墜落したリーダーはATCによる  
制動力とロープの弾性、ランナー  
の摩擦抵抗で最後は停止する。で  
は、この時どのくらいロープが流  
れたらリーダーは停止するのか、  
机上論では30cm程度で停止可能で  
はあるが、これについても後日検  
証を行いたい。

今回参加していただいた隊員は、  
さまざまな「見える化」が出来た  
のではないだろうか。数値が出て  
くると大半の方々が眉をひそめる  
が、理屈を抑える事は大切である。  
救助活動では二名、三名が一本の  
ロープにぶら下がる事は通常であ  
り、支点にかかる荷重はクライミ  
ングで発生する一名分の荷重と比  
較したらとんでもない値である事  
を今回証明できた。  
数値自体を覚える必要はないが、  
救助の現場にどのような危険が潜  
んでいるのかを察知できる隊員に  
育っていただけるよう切に願う。

## 平成二十八年度日本山岳協会 山岳レスキュー講習会(無雪期)

遭難対策委員会 神 垣 聖 子

九月九日から十一日、独立行政  
法人日本スポーツ振興センター国  
立登山研修所で日本山岳協会によ  
る山岳レスキュー講習会(無雪期)  
が開催されました。

無積雪期登山での遭難防止及び  
遭難事故現場で必要な登山者の救  
助技術の習得・研鑽を目的とした  
講習会です。

コースは縦走・ハイキングレス  
キューコース、クライミングセル  
フレスキューAコース、Bコース、  
クライミングワークレスキュー  
コースの四つです。



ストレッチャーによる岸壁での引き上げ

各都道府県の山岳連盟の方や警  
察官、消防士の方が参加の大多数  
となっていました。今年は災害の  
影響を受けて、クライミング  
ワークレスキューコースに定員を  
上回る参加者が集まっていまし  
た。

私は今回で二度目の参加になり  
ますが、講師補助という立場で縦  
走・ハイキングレスキューコース  
に配置となりました。講師補助と  
言いますが、常任委員の方々から  
の寛大な配慮により勉強させて頂  
きました。



開講式後の全体講習風景

はじめに平成二十七年度の山岳遭難事故の概要について全体講習が行われ、それぞれのコースに分かれて講習が始まります。

セルフレスキューの心構え、登山の事前準備、事故を予防する運動生理学、道迷いについて座学を行い、実技ではツエルトを使用したビバーク方法、応急手当、背負い搬送やザック、ストック、レインウェアなどの登山用品を利用した搬送が紹介されました。

ロープワークでは、テープスリングを使用した簡易ハーネスの作成、補助ロープの活用として悪場での登下、トラバースを実習しました。

最終日は、シミュレーションとしてパーティーで登山中に負傷者



屋外でのファーストエイドシミュレーション

に遭遇し救助連絡・手当・安全な場所までの搬送を行い三日間の締めとなりました。

私が平常時参加している指導委員会や遭難対策委員会主催の講習会と内容が変わったところはなく、普段の講習内容の質の高さを改めて感じました。

またシミュレーションを客観的に見ることによって気づくこともあり、受講生の方々からも勉強させていただくことは多くありました。

ありがたい環境に身を置かせて頂いていますが早く一人前としてお返しできるようにならなくては、と肩の荷を重く感じる三日間でもありました。

# 平成二十八年度個人会員第五回交流登山 那須三本槍岳・茶臼岳

## 山の秘湯に泊まる

個人会員委員会 浅岡利栄

(松井山岳会)

期日 九月二十四日～二十五日

参加者 会員15名(男9・女6)

スタッフ8名(男6・女2)

計23名

### 登山行程

24日 峠の茶屋駐車場～峠の茶屋

～朝日岳～三本槍岳～三斗小屋温泉

25日 三斗小屋温泉～茶臼岳～峠の茶屋駐車場(大黒屋泊)

《二十四日》

5:00 道の駅「玉村宿」集合



トラバースを慎重に歩く



山頂まであと少し

中型バス1台で峠の茶屋駐車場へ。

装備完了後、ストレッチ。

8:10 登山開始。曇り空、展望のない中、峠の茶屋へ9:00到着。

一本(休憩)入れ、朝日岳へ向かう。険しい岩峰を見ながら、ガスにまかれたガレ場を歩く。落石に注意して、左側の切れ落ちた、鎖場を通り、慎重に登る。時々腕力で、登ろうとする人を見かけるが、鎖は補助として方が一のために片

手を握る程度が良い。基本は、足で上り下りする。ガレ場での浮石に乗って転倒しないよう、また、落石を誘発することのないよう、小幡で丁寧にそと歩くことが必要。朝日岳の肩にザックをデポし、山頂を目指す。

10:10 朝日岳(一八九六m)山頂ガスの中。眺望なし。残念。熊見曾根分岐へ向かう。イベント参加者か、オレンジ色の三角パッチを着けた人達が大勢いて、すれ違いが多い。清水周辺は、ナナカマドの実が綺麗に色づいている。笹葉の緑と赤のコントラストが美しい。

11:10 北温泉分岐で昼食。他の登山者の邪魔にならないよう、道をあげ、足元の植物を傷めないよう配慮し、腰を降ろす。先が長いため、急ぎ早に昼食を取り、次の登山者に場所を譲るように、三本槍岳へ向かう。

12:24 三本槍岳(一九一七m)到着。なだらかな山頂。イベント参加者と一緒で賑わう。大峠へ向かう。殆どの登山者がピストンで、三斗小屋へ向かうのは、岳連メンバーのみ。イベント係員から、二つ目の渡渉が崩れている箇所があることを知らされる。今回は、峠

手で握る程度が良い。基本は、足で上り下りする。ガレ場での浮石に乗って転倒しないよう、また、落石を誘発することのないよう、小幡で丁寧にそと歩くことが必要。朝日岳の肩にザックをデポし、山頂を目指す。

沢・中ノ沢・赤岩沢三つの沢を渡る。途中小雨になり、大峠と三斗小屋への分岐で、雨具を着用。皆、手際よく、靴の上からスパー袋を履き、ズボンの内側を汚さぬよう雨具を着用。

最初の渡渉。連日の雨の為か水量が多く、流れが速い。男性に比べ、歩幅がない女性陣は不安な様子。先頭スタッフが、渡り方を指導し、手を差し伸べる。ストックを使用している者もいるが、足元が覚束ない。ストックを石の上につかず、沢の中に、体の前後でなく横につき安定させ、補助として利用すると良い。又、足下が少し傾いているだけでも滑りやすいので、苔の無い水平な岩や石を選び、足をフラットに乗せると良い。私は、今回三度の渡渉は知っていたが、沢がどのような状況であるかは、理解しなかった。ペテランスタッフは、沢を見る前に、二三日前の天候の様子から水量・水流・山の地質も理解しており、この山は余り水が流れ出ない事を教えてくれた。

流木や土砂崩れなどにも注意が必要だ。沢に降りる個所で、木の根が剥き出しになり、濡れた岩場を下降する箇所があった。係員が言っていた場所らしい。ロープが張られていた。濡れた木の根は、氷と同じ。日帰りとは違って、ザックも重く、バランスを崩し、滑り易いので慎重に。濡れた岩壁でも、怖がつてへばりつかず、体を離すと姿勢が安定し、次の一步が楽に確認できる。しっかりと足で体重を支え、手はバランス保持を心掛ける。両手足を四点とした場合、動かすのは一点のみ。残りの三点は確保に専念することが基本。(三点確保の厳守)

急傾斜の滑り易い場所で見られるロープは、鎖以上に補助として使う。体重を預けるとロープが劣化している場合には、切れ易い。握る前に引っ張ったりして確認することや、ゆるみを取ることも大切。スタッフが傍らにつき、一人一人の様子を見ながら、誘導する。無事に三度の渡渉を終え、最後に二〇〇m弱の登りを頑張ると、向こうに「大黒屋」の明かりが見えた。15:30到着。荷物整理し、着替えを済ませ、女性陣は檜風呂へ。男性陣は岩風呂へ。冷えた体が温まる。至福の時。お風呂は、一時間毎の交代制。大黒屋は旅館のようで、布団は羽毛布団、食事は一人ずつのお膳で運ばれる。男性スタッフが担ぎ上げた美味しいお酒も、宴会を盛り上げる。筋トレの話、山道具の話、高山植物の話、二十三名居ると様々な情報が飛び交う。気の合う仲間を見つかけたり、楽しい雰囲気。山談義が尽きない。夜空は、満天の星。明日の眺望に期待。

《二十五日》  
朝焼けが綺麗に見られる。朝風呂に行く者、散歩を楽しむ者、スタッフの入れたコーヒーを嗜む者。昨夜、いびきに悩まされ、十分に睡眠をとれなかった者も。アイマスクと耳栓も必需品。朝食を済ませ、ストレッツ後8:00出発。橋のかかった沢を渡り、姥ヶ平方面へ。木の間から噴煙を上げた茶臼岳が見える。素晴らしい雄姿。9:50 ひょうたん池分岐で一本入れる。姥ヶ平く牛ヶ首の稜線へ。二十三名の大人数だと、どうしても歩行ペースにひらきがで、二班に分かれてしまう。前班との距離を気にして急ぎ足になると、「まだ目的地まで、距離が長いので、今のペースで行きましょう。」と

促される。自分のペースを崩し、無理をすると疲労に繋がる。一定のリズムで無理なく歩くことが大切。ロープウェイ・山頂駅方面へ向かう。ガンコウランの緑に黄色く紅葉した葉が美しい。日光国立公園・那須岳と書かれた石碑を後に、富士山のようなザレ場を歩く。途中一本入れ、水分補給をする。鳥居を潜り、茶臼岳山頂(二九一五m)11:50到着。



茶臼岳をバックに

スタッフが振舞うオレンジが乾いた喉を潤す。那須嶽神社の小さな祠が鎮座する山頂を後に、御鉢巡りをして、下山する。時々ガスが切れ、歩いて来た稜線が見える。登った甲斐あつての眺望だ。下山を惜しむ気持ちと葛藤しながら、足を進める。下りのザレ場では、

怖くてもやや前傾を取り、膝を突き出し、靴底を吸い付かせてゆくり歩くのが、膝に負担をかけず疲れのない歩き方だ。前班とは、距離が開き急ぎ足になるが、ガスが巻いて視界が悪いので、登山道の両サイドのロープから逸れないよう注意し下山する。

峰の茶屋避難小屋で、一本入れ、シャリパテしないよう行動食を入れ、水分補給する。標高が低くなるにつれ、ガスがとれ、昨日見えなかった景色が現れる。所々に竜胆の花が見え隠れしていた。登山道入り口の鳥居を潜り無事下山。前班は、ベンチで昼食を取っていた。三十分遅れで、後班13:30到着。昼食を取りストレッツ後、14:00峠の茶屋駐車場出発。17:00道の駅玉村宿到着。いつも、天候の良い日を選んでの山行が多い私は、雨の日の経験は少なかつた。山の天気は変わりやすい。今回三度の渡渉、ガスの中の歩き方、雨で濡れた鎖場や岩場、どのような状況においても対応できる経験が必要であると感じた山行であった。楽しい登山をする為には、一定の体力と技術や知識が必要だが、何よりも経験が大切であると感じた山行であった。

# 平成28年度 登山教室実施報告

## 登山指導委員会 対比地 昇

今年度は久しぶりに参加者が三十名台に回復し、三十八名とたくさんの方に参加していただきました。「山の日」が制定され、関係する行事でチラシを配布し、店頭においてもらう登山用品店の数を増やした効果が見られたものと思われま。参加者のみなさんは、登山について学ぼうという意欲が旺盛なので、人数が多いとそれだけ活気を感じることが出来ます。

### 日程・内容・人数

回数	実施日	内 容	参加	講師
1	9/1 (木)	開講式 座学①「読図 地形図について 手島」	37	12
2	9/15 (木)	座学②「シルバコンパスの使い方 岩井」	37	11
3	9/17 (土)	登山実技「榛名山」 1班(掃部ヶ岳)、2班(烏帽子岳)、3班(天目山)	33	9
4	9/22 (木)	登山実技「榛名山」 1班(烏帽子岳)、2班(天目山)、3班(掃部ヶ岳)	28	11
5	9/29 (木)	座学③「登山計画書 石橋」 座学④「ファーストエイド 星野」 閉講式	34	13
皆勤 (修了証)			23	
特別講習	3/4 (土)	登山実技(スノーシュー) 「玉原湿原周辺」	申込 16	



また、今年度も昨年度に続き、男性の方が多いという結果でした。二年前までは圧倒的に女性が多いという状況が続いていたので、男女の差がなくなってきた良い傾向だと思っています。

座学は例年行っている地図の見方、シルバコンパスの使い方、登山計画書に付け加えて、今年度は新たにファーストエイドを加えました。

実技は榛名山で実施しましたが、今年は悪天の日が多く、いろいろと悩まされました。一回目は曇りでなんとか予定通り実施する



実技講習 (榛名山)

ことができたのですが、二回目は台風の通過が予想され、延期の検討も余儀なくされました。幸いにも台風が早く通過して天気回復を期待しましたが、結果は雨の中での講習になりました。コースを変更して時間も短くしましたが、講習を終えて帰ってきたときの表情は意外にも明るい表情が多く見られました。アンケートでも「雨の日の登山ができて良かった」「雨具を着る機会が持てて良かった」等の感想があり、雨の中の講習も初心者にとっては貴重な経験になるということを改めて認識しました。

③小屋泊の経験は

あり	19
なし	16

④テント泊の経験は

あり	9
なし	26

②登山を始めて何年くらいですか。また、1年に何回くらい登山に出かけますか。

0~2年	10
3~4年	7
5~6年	4
7~10年	5
11~15年	3
16~20年	3
21年~	0

0~5回	11
6~10回	9
11~15回	3
16~20回	5
21~30回	2
31回~	1

①参加者の男女数、年齢構成、この登山教室の参加経験。

男	19
女	16

~30	1
31~40	5
41~50	6
51~60	10
61~70	13
71~	0

初めて	31
あり	4

⑤参加した理由は何ですか？

仲間に誘われて	3
仲間を見つけるため	4
登山の知識を増やしたかったから	31
登山の技術を習得したかったから	20
情報交換のため	5
もっと理解を深めたかったから	16
その他	0

⑥参加費の五千元は

高い (希望額円)	1(三千元)
適額	28
安い	5

### アンケートの結果

①参加者の男女数、年齢構成、この登山教室の参加経験。

(1)座学

読図	20
山の天候と天気図	22
山での危険の回避	22
山での応急処置	20
服装・装備	13
歩行技術	20
行動計画	9
食糧計画	8
生活技術	7
その他 ・単独登山の不可 欠な装備 ・山行記の楽しみ方 ・美味しい山ご飯 の作り方	3

⑧登山教室のテーマとして興味のあるものは？(複数回答可)

(1)座学①「地形図」

理解できた	20
少し理解できた	10
あまり理解できなかった	3

今後の登山に役立つ	24
少し役立つ	9
あまり役立たない	0

(4)実技「榛名山2回目」

理解できた	23
少し理解できた	4
あまり理解できなかった	1

今後の登山に役立つ	19
少し役立つ	5
あまり役立たない	0

(2)座学②「シルバコンパス」

理解できた	21
少し理解できた	11
あまり理解できなかった	2

今後の登山に役立つ	26
少し役立つ	5
あまり役立たない	1

(5)座学③「登山計画書」

理解できた	27
少し理解できた	4
あまり理解できなかった	1

今後の登山に役立つ	27
少し役立つ	2
あまり役立たない	1

(3)実技「榛名山1回目」

理解できた	22
少し理解できた	6
あまり理解できなかった	0

今後の登山に役立つ	23
少し役立つ	3
あまり役立たない	0

座学④「ファーストエイド」

理解できた	23
少し理解できた	8
あまり理解できなかった	0

今後の登山に役立つ	21
少し役立つ	7
あまり役立たない	0

⑦各回の講習はどうでしたか？



座学「シルバコンパスの使い方」(生涯学習センター)

① 楽しかった	30
少し楽しかった	5
あまり楽しくなかった	0

② 今後の登山に役立つ	31
少し役立つ	2
あまり役立たない	0

③ 期待通りだった	29
少し期待はずれだった	3
期待はずれだった	0

⑨全体を通して、今回の登山教室に参加してみたいかがでしたか？

(2)実技	
無雪期のテント泊山行	15
無雪期の小屋泊山行	12
縦走路でのロープワーク	18
岩登り	10
沢登り	6
雪山登山	12
その他 ・食事の楽しみ方 ・歩く以外の楽しみ方 ・体力作り、ストレッチ	3

⑩講習について感想、意見、気がついた点などご記入ください。

○読図とコンパスの使い方に重点を置いた講習があれば良いと感じた。  
 ○雨天時にも実技ができたので良かったと思う。なかなかレインウエアを着る機会がなかったので。できれば予定通りのコースで歩いても良かったと思う。  
 ○もう1回ほど実技があっても良かったのでは?と思いました。3コース全てでレクチャーが欲しかった。  
 ○バンドエイドの大判を持って行くと便利。  
 ○読図、シルバコンパスの使い方を知らなかったのでとても参考になりました。実技がもっと多くてもよいと思います。  
 ○実技のとき慣れた方と初心者の方がいて、途中苦しくなり気分も悪くなってしまったので、初心者の方が楽しめるペースで歩ければよかったと思った。ついて行かなくていい、ついて行こうとしたが、息が上がって苦しかった。  
 ○実技の回数を増やして欲しい。  
 ○ファーストエイドを深く理解したいと思います。  
 ○何となく知っていたことをある程度体系的に理解できた。一番のポイントは山での危険の回避方法であり、それについてもっと知識を深めたいと思った。  
 ○読図、シルバコンパスを目的としたので、よく分かり大変よかったです。  
 ○丁寧に教えてもらってよかった。  
 ○大変参考になりました。  
 ○読図、シルバコンパスの使い方、ファーストエイドなどすべてとても参考になりました。実技については基本の歩き方からパッキングのしかたなども教わりたかった。  
 ○いつも2人で登っているので、集団での登山は少し不安だったのですが、ガイドの方やグループの方のおかげで楽しく登ることができました。また、ツェルトの使い方や雷に遭ったときの対処の仕方など実体験を交えてのお話はとてもためになりました。  
 ○あっという間の時間で、もう少し理解を深めたかった。  
 ○第1回 説明と地図上での見つけ方の方法をもう少し詳しく説明が欲しかった。第2回もう少し詳しく説明があった方がよい。答えがあったので良かった。実技は机上と違って自分の勉強不足が出て、難しさをさらに実感しました。  
 ○コンパス、円を描くコンパスを想像した。笑えない。登山知識のある人には分からないと思うが、恥ずかしいが、無知なのです。それでも山に行きたいと思っている。年齢も若くないので、道迷い、遭難とか人に迷惑をかけたくないゆえ教室に参加した。まだまだです。お世話になりました。ありがとうございます。一步前進!

⑪その他、感想、意見、改善したほうがよい点など自由にご記入ください。

○ありがとうございました。  
 ○登山保険の話があってもいいかなと思う。  
 ○近いうちに地図、シルバコンパスを使って登山をしたいです。ステップアップした登山教室を開催して欲しいと思います。  
 ○山岳連盟として登山技術や知識をPRすることは私たち初心者だけでなく、教えることでの成長があるのではないのでしょうか? もちろん初心者としては大変ありがたいことなので続けていただきたい。  
 ○まだ分からないことが多いので、もっと深く知りたいと思いました。  
 ○2回目の実技は参加者から代表を選んでリーダー役をするのもよいかと思います。  
 ○楽しかったです。ありがとうございました。  
 ○群馬の山の遭難場所、状況などを講義に取り入れて欲しい。  
 ○登山仲間ができればよかった。交流が難しい。  
 ○単独行動時の注意点などを知りたい。いかに情報を求めるか知りたい。  
 ○机上講習で地図は机が狭く、少々やりずらかった。  
 ○初めての参加で全体的に良く教えてもらったと思う。もし事前に分かっていたら、レベルをそろえらるともっと深い内容になったと思う。  
 ○今後の山行にいかしていきたいと思います。  
 ○雨の日の登山を経験して楽しかったです。  
 ○お世話になりました。ありがとうございました。  
 ○楽しかったです。  
 ○本やネットで学ぶのではなく、プロの方々に教えていただくことはとても良かったです。  
 ○十人十色、学習能力の低い者もいる(自分)。理解できないことを「なんで分からないの?」(座学のコンパス利用時) 2回目の時、横に来た指導者の言葉。目の前が真っ暗になり止めようと思った。実技に参加して良かった。地図と実際の景色が分かるようになり楽しくなった。実技2回目を実施するにあたり22日がだめなときは24日にするかという時、参加者としては「ボランティアだから中止すべき」の言葉は聞きたくなかった。22日参加できなくて残念だったが。

# 《加盟団体紹介》 日本山岳会

## 群馬支部

根 井 康 雄

一九〇五年の創立以来一一〇年超という、わが国の山岳会としては最古の歴史を誇る「日本山岳会」ですが、群馬支部は平成二十五年七月設立の「若い」支部。支部の会員の平均年齢は六十六歳と決して若くはありませんが、この春神奈川支部ができるまでは、全国でも一番の「末っ子」支部でした。

ちなみに、日本山岳会全体の会員数はおよそ五〇〇〇人。高齢化が危惧され、平均年齢は六十八歳。そんな中ですから「六十六歳の群馬支部は若い」といってもあながち間違いいはないのかもしれませんが、二〇人で始まった群馬支部も、二〇一六年十月現在、会員数四〇人と倍増しました。最近では四十代の盛り盛りの会員も相次いで入会し、これからは楽しみです。

支部長は岳連参与でもある田中 壯信さん、副支部長は長蔵小屋の平野紀子さんが務めています。岳連会長としてもおなじみの日本山岳協会長の八木原罔明さん、岳連

理事長の佐藤光由さん、そして日本山岳写真協会長の橋本勝さんをはじめ海外、国内での数々の登攀歴など輝かしいキャリアを誇るそうそうたるメンバーが会員名簿にその名を連ねています。「山」のスタイルもそれぞれで、アルパインクライミングから縦走、名山・三角点ハンティング、山スキー、トレラン、山岳写真、さらには自転車でのヒルクライムレース参戦までといった具合です。そのため、



支部山行 富岡アルプス・神成山

みながそれぞれの世界を持ち、それぞれの「山」を實踐していることもあって、支部としての山行はけっして多くはないのが実情です。

そんな中で、八月の山フェスタと山の日イベントは全員がまとまって取り組む支部の柱的な事業、特に日本山岳会の公益事業全体として見ても、その中心となる主要イベントになっています。今年の山フェスタではマナスル六〇年を記念した記録映画上映と田中支部長による講演会などを行いました。

支部としての山行は、年四回実施し、毎回一〇人前後が参加しています。今後は支部山行委員会を中心に山行の回数増、内容の充実などを図っていく考えです。さらに家族登山への取り組みも進めて行く方向で、岳連のチャレンジキッズへの協力をベースに独自の家族登山などにも取り組んでいきます。また自然保護委員会の活動もスタートし、八月の山の日イベントで谷川山麓の自然観察ツアーを実施しまし

た。今後は岳連の自然保護委員会とも連携を深めていきたいと考えています。



支部山行 赤城黒檜山

支部例会は隔月開催しています。会員が全県に散らばっていることなども考慮し、前橋、高崎二会場での交互開催です。例会後は毎回会員一名によるショートスピーチを行い、それぞれが登山観や山行歴、これからの登山など、様々な観点から語ります。その後は有志による「二次会」が恒例です。山の話が尽きることなく続きます。まさに日本山岳会が標榜する「クラブライフ」の一つの姿と言えるでしょう。

また支部報も会員同士を結び、

会員外へ支部の動向や考えを伝える大切なコミュニケーションツールです。年二回の発行で会務報告や事務局からの連絡、そして会員の山行報告、エッセイなど多彩な誌面となっています。反面、支部のホームページはこれからの課題です。

日本山岳会では随時入会申し込みを受け付けています。すでに山岳会に入っている方ももちろん大歓迎します。実は自由でゆるやかな会ですので、すでに入っている会での活動との両立は十分可能と思います。群馬だけでなく、全国にはさらにたくさんの方の多才な面々が揃っていますので山の世界が大きく広がるはずですよ。まずはお問い合わせください。入会申込みも含めた各種連絡は事務局長の根井までお願いします。連絡先は下記の通りです。

日本山岳会群馬支部

〒371-0051

前橋市上細井町1200-7

(根井方)

メール: [nei@kl.wind.ne.jp](mailto:nei@kl.wind.ne.jp)

携帯: 080-650063567

ホームページアドレス: <http://jac.or.jp/info/shibudayori/>

[jac.or.jp/info/shibudayori/](http://jac.or.jp/info/shibudayori/)

[gunmasibu/list.html](http://gunmasibu/list.html)



株式会社エーアールアイ  
東京都練馬区上石神井 3-18-1  
TEL 03-5991-4638

弱電工事承ります。  
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN 及び Wi-Fi 環境)、  
TV アンテナ及びケーブル工事  
パソコンで悩んでいませんか?  
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。  
(難しい故障の場合は外注となります。)

## ミヤマネットワーク

代表 佐藤光由  
群馬県前橋市高花台 1-6-5  
電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158



# (有) 山とスキーの店 石 井

## **DreamBOX**

伊勢崎市宮子町 3448-2  
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026